

平成31年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて利用者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. <ケア部門>

①ご自宅での生活リズムに合わせたサービスの提供

定期利用者の個別ケアシートを作成し情報を共有することができた。在宅のケアマネジャーより施設での過ごし方を教えてほしいと連絡があり、個別ケアシートで情報を共有すると、とても様子がよくわかると喜んでいただくことができた。また担当者会議に出席することで、ご家族と情報の交換を行い信頼関係の構築に努めた。新規利用も多く、在宅での過ごし方を聞き、施設での過ごし方に不安がないようサービス調整に努め、定期利用へと繋げることができた。

②レクリエーション活動の充実

毎年、行っている外出行事の企画、お花見や初詣を実施した。お元気な方の利用も多く、散歩の時間を作ることで運動の機会や気分転換を図った。その日の利用者の状態や雰囲気に合わせてレクリエーションを考え、一緒にゲームを作り、一緒に楽しむことができた。また日替わりで体操を行い飽きることがないように努めたため、ケアマネジャーから、レクリエーションの内容や一日の流れの問い合わせも多くみられた。

③遠藤メソッドへの取り組み

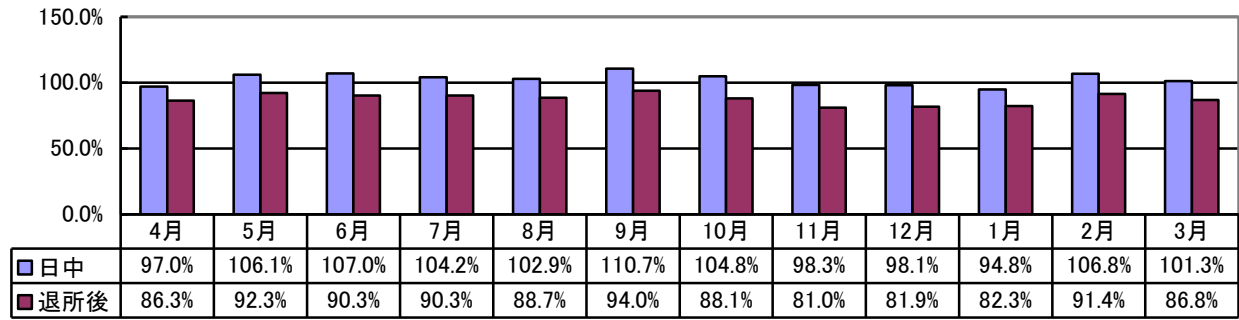
特別養護老人ホーム大慈智音園同様

4. <経営部門>

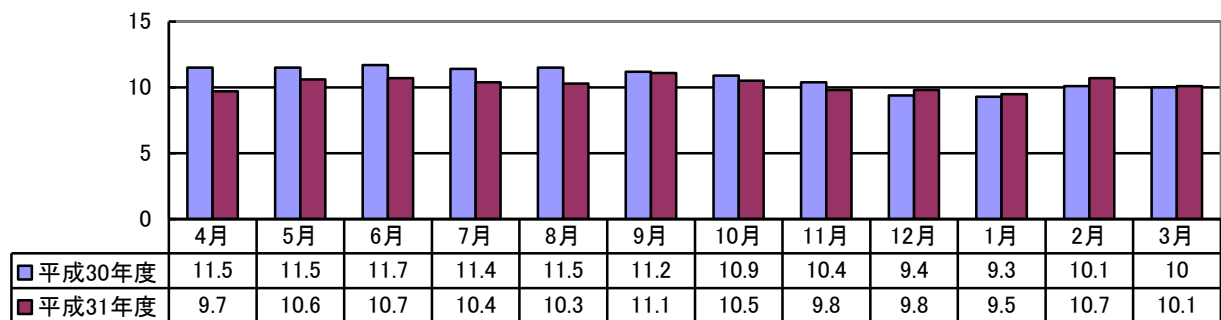
①充足率の向上(目標：充足率97%)

12月から1月にかけて体調不良でのキャンセルやロングショートから入居になることで空床が増えた。新規利用者獲得に努めるが、人事異動もあり、スムーズに新規利用者を利用へと繋げる事ができなかった。2月3月は新しく増員となり何とか目標値に近づくことは出来た。

●充足率→日中102.6%、退所後87.7%
 (前年平均 日中107.4%、退所後92.5%)



●平均人数→日中10.2人
 (前年度平均 日中11.3人)



●介護度別年齢別等人数表 (令和2年3月31日時点での実人数)

要介護度	平成30年度				平成31年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	1		1	93歳	1	1	0	82歳
支援2	1		1	91歳	4		4	90.8歳
1	4	2	2	87歳	8	1	7	87歳
2	8	3	5	87.5歳	19	2	17	88歳
3	22	5	17	87.5歳	26	11	15	86.9歳
4	16	5	11	85.4歳	12	5	7	80歳
5	10	3	7	82.5歳	11	4	7	82.5歳
合計	62	18	44		81	24	57	
平均介護度		3.2	3.2	3.2		3.4	2.6	2.8
平均年齢		93.4歳	89.5歳	87.6歳		80.4歳	87.9歳	86.6歳
最高年齢		98歳	100歳			99歳	99歳	
最低年齢		55歳	72歳			72歳	73歳	

5. 《年間行事・行事食予定》
 6. 《職員会議・OFF-JT》
- } 特別養護老人ホーム大慈智音園同様

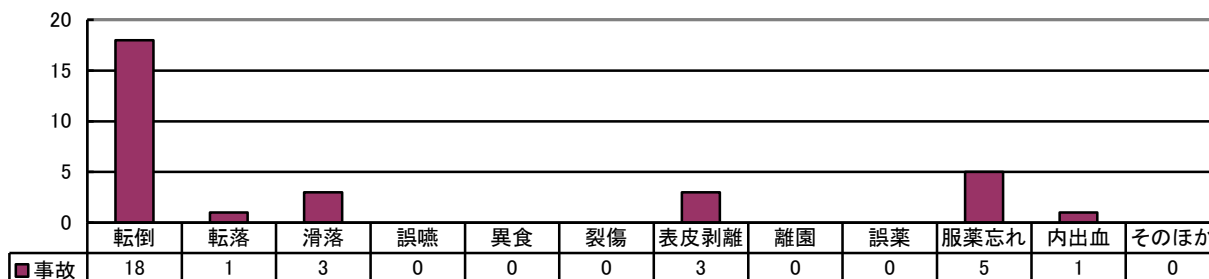
7. 《リスクマネジメント報告》

事故の定義→膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

	平成30年度	平成31年度
事故件数	40件	31件

②発生内容別件数



③まとめ

転倒事故の件数が他の事故と比べ圧倒的に多い、歩行は可能ではあるが、リスクの高い方の定期利用もあり、同じ利用者の転倒事故も多い。その他は、服薬忘れ5件あり、服薬する時間にサポートせず、お薬ポーチの中に残っていた薬を発見するというパターンが多い。簡単な確認を怠ることで生じる事故であり、誤薬はないものの、確認方法を見直し、介護技術標準で指導していくことで、服薬忘れの事故が起こらないようにする。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	平成30年度			平成31年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	8件	0件	8件		9件	0件	9件

○まとめ

相談件数としては9件である。日常の利用者の訴えを取り入れるともう少し件数は多くあると思われるが、大きな苦情に繋がることなく1年が経った。しっかりとした利用者も多く、対応できることは、職員で話し合いご希望に添えるよう努力した。内容としては、職員の連絡ミス、預かっている荷物の返し忘れなどであり、早急に対応を行うことで苦情にはならなかった。

9. 《総括》

開設から5年経つことで、安定したサービスの提供ができ、レクリエーションも充実させることができた。一日のタイムスケジュールなど問い合わせも多くあり、レクリエーションを積極的に行っていることで、定期で利用している介護支援専門員から新規利用者の紹介が多く見られた。特養と情報交換を密に行い、緊急時の対応や空床利用を活用することで、目標に近づくことができた。

引き続き、レクリエーションにも特色を出しながら、ショート利用が利用者の楽しみに繋がりと、ご家族の介護負担も軽減できるよう努めていく。

また、高齢者は、突然、体調を崩すことも多いため、定期利用者の枠を広げ、一人でも多く利用する方を獲得し、キャンセル時に対応できるようにしていきたい。日頃より、空き状況を他事業所に発信する事でも利用者獲得に努める。